NEWS RELEASE

未来を、ひろげる。
HIROGIN HOLDINGS

2022 年 3 月 1 日

データ利活用の高度化に向けた取り組みの開始について
（内製化によるAI分析モデルの業務応用への本格着手）

株式会社ひろぎんホールディングス（代表取締役社長 部谷 俊雄、以下「当社」）では、日本アイ・ビー・エム株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：山口 明夫、以下「日本 IBM」）と協働し、「データ利活用の高度化」に向けた取り組みの一環として、**内製化による AI 分析モデルの業務応用**へ着手しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．経緯

当社では、「中期計画 2020」において「データ利活用の高度化」を各種戦略の実現を支えるコア原動力として位置づけ、AI データ分析の内製化を目指すべく、2020 年度より日本 IBM の支援のもと体制構築に向けた準備を開始しました。その成果を受け、2021 年 4 月よりデータ分析組織を立ち上げ、実証的に AI データ分析案件に着手したものです。

２．内製化による AI 分析モデルの業務応用

・**2 件の AI モデルについて内製化により開発完了**し、実際の業務運用に供するとともに評価測定を実施中で、相応の効果が出つつあることを確認しました※1。
なお、当該取組みに際し日本 IBM と引き続き協働関係を継続しており、リモートでの定期的な側面支援と並行して、2021 年 10 月からデータサイエンティスト 1 名の出向受入を実施し、当社グループ内社員から選抜したデータサイエンティスト内製要員の育成強化に注力しています。

・これを受け、AI 内製化は実証の域を脱し本格的な業務応用への移行が可能と判断し、2021 年 10 月からは中期計画の重要取組事項であるグループ営業戦略の実現に向け重点的に活用すべく、具体的な検討を開始しました。

・また、その実現をより強固なものとすべく、2022 年 3 月中に日本 IBM のパブリッククラウド型統合データ分析基盤である「IBM Cloud Pak for Data as a Service（CP4D）※2」の利用を開始する予定です。

３．今後の方針

データ利活用を始めとした DX（デジタルトランスフォーメーション）への積極的な取組みを継続するなか、お客さまの利便性向上と地域経済の発展、持続可能な社会の実現に向け取り組んでまいります。

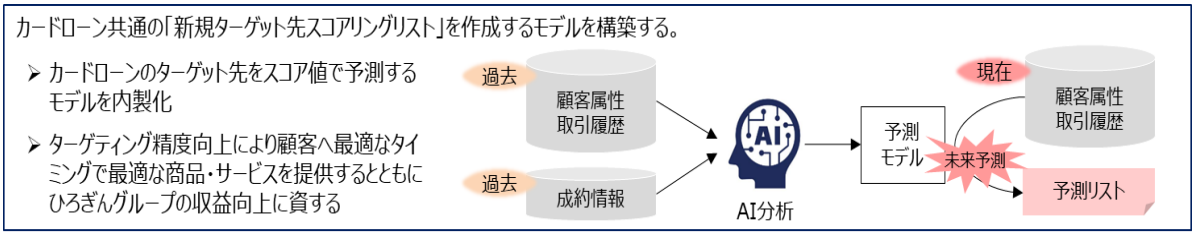
以上

本件に関するお問い合わせ先
株式会社ひろぎんホールディングス　デジタルイノベーション部
℡（082）245－5151（代表）

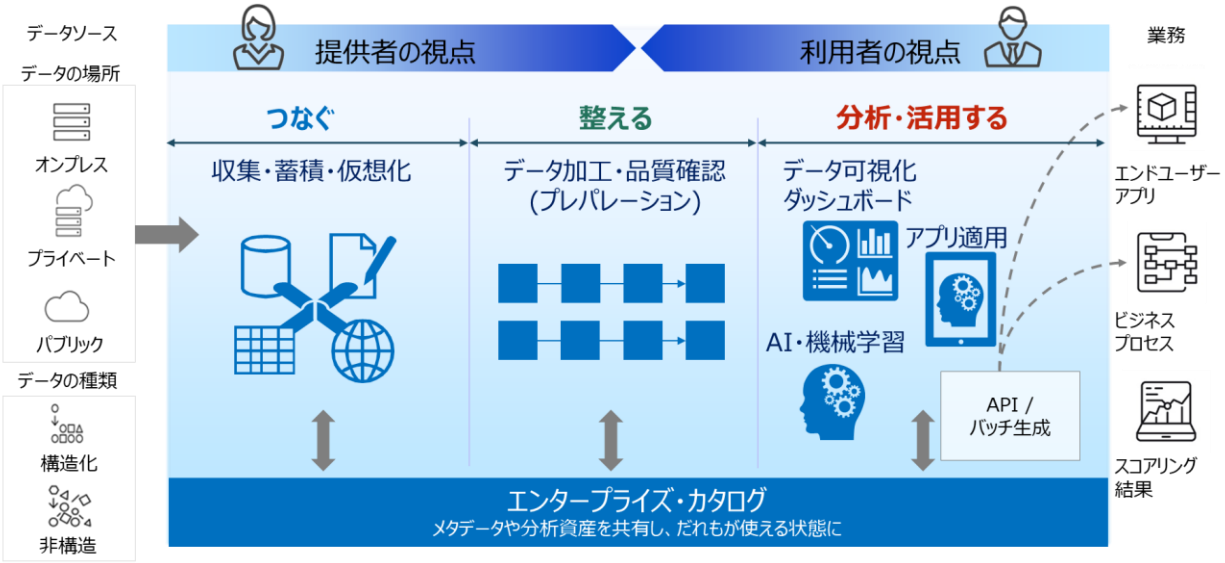
※１　AI データ分析モデルの概要

モデル	概要	開発環境	実現効果
①　消費性カードローン申込予測モデル	カードローンのご提案を喜んでいただけそうなお客さまをスコア値で予測するリストを出力するモデル	Jupyter Notebook 上での Python によるコーディング開発	一定レベルで定量的な AI 導入効果を確認
②　ひろぎん証券マルチチャネルサービス申込予測モデル	マルチチャネルサービスのご提案を喜んでいただけそうなお客さまをスコア値で予測するリストを出力するモデル		グループ各社（ひろぎん証券＋広島銀行）のデータ融合によるシナジー効果を有意なレベルで確認 （お客さまからデータ共同利用にかかる同意を頂いている広島銀行仲介口座に限定して実施）

（参考）①モデルの全体イメージ



※２　IBM Cloud Pak for Data as a Service　（CP4D）

データの収集、蓄積、活用（高度 AI 分析や AI 自動化処理、ダッシュボード機能（可視化）などを含む）に必要な一連の充実したツール群をサブスクリプション課金にてトータル・ワンストップで提供する日本 IBM のパブリッククラウド（SaaS）型統合データ分析基盤

（参考）CP4D 全体イメージ（日本 IBM 提供資料）